

令和4年度 第1回 小平市コミュニティタクシーを考える会
小平南東部地域コミュニティタクシーを考える会（合同開催）報告

- ▶ 開催日時：令和4年5月17日（火）14時～15時30分
- ▶ 開催場所：小平市役所 6階 602会議室
- ▶ 出席人数：・コミュニティタクシーを考える会……………6人（欠席8人）
・南東部地域コミュニティタクシーを考える会…6人（欠席12人）
・傍聴…3人

1 挨拶・自己紹介・進行役の選出

出席者の挨拶及び自己紹介を行い、進行役に嘉悦大学の和泉教授を選出

2 『「平成18年の市の公共交通に対する基本的な考え方」の取組のまとめ』について

（資料1-①）（資料1-②）

○公共交通課から資料に基づき説明

◆ 質疑等

- ・平成18年の「市の公共交通に対する基本的な考え方」これを見直すということか。また、見直しを今年度から始め、いつ頃完成する予定か。
→（公共交通課）今年度から概ね2年間で検討する。これまでの取組を踏まえ、市の公共交通に対する新しい考え方や方向性を示していく。
- ・2年間で新たな考え方をまとめる見通しについて説明があった。それに伴い、コミュニティタクシーを考える会等での検討が大事だと考えるが、どの程度の頻度で開催すると考えているか。
→（公共交通課）考え方のベースとなるものは、庁内関係課長で構成する検討委員会で検討し、そのうえで、コミュニティタクシーを考える会等にご意見をいただくことを想定している。そのため、会議開催の頻度としては、年に2から3回と考えている。しかし、皆様のご意見を踏まえ、柔軟に考えていく。
- ・『「平成18年の市の公共交通に対する基本的な考え方」の取組のまとめ（報告書）』の43ページに、これまでの取組や現状から見えてきた課題として、7つ挙げられており、この課題を順番に解決していくにあたり、優先順位があるかと考えるが、その優先順位はどうなっているのか教えて欲しい。
→（公共交通課）課題をどのように解決していくかは、これから検討していく。どの課題も重要であると捉えているが、行政が考える重要度と地域の方の考える重要度が異なることも考えられるため、皆様のご意見をいただきながら、これから検討していく。
- ・市を越えての連携は検討しているか。
→（公共交通課）近隣市の地域公共交通において、小平市に関わるものとしては、花小金井駅に西東京市のコミュニティバス「はなバス」が乗り入れている。また、東久留米市のデマンド交通

「くるぶー」が令和2年の3月から運行を開始しており、乗降場所に、公立昭和病院がある。しかし、乗降場所を提供しているだけであり、小平市民は利用できないため、相互連携とは言えない。市境に住んでいる方の生活交通の充実を図るため、近隣の自治会等と連携を図りながら、広域的な視点で様々な取組を検討していく必要があると考えている。

- ・生活圏が小平市に留まらない方の交通をどうするかという問題提起につながると考える。
- ・今後、コミュニティタクシー以外の新たな交通手段を考えるに当たり、昨年7月から渋谷エリアで始まった相乗りタクシーの交通サービスについて、情報提供する。

「ちょい乗りサービス mobi」

- ・事前に登録し、アプリでタクシーを予約すると、行きたい場所に乗り合いで利用することができる。
- ・エリア内にアプリ上で仮想に設けられた指定の停留所で乗車し、相乗りで移動する。
- ・1回300円もしくは、30日間5,000円の利用金で、登録者の家族も1人500円（上限6人）で利用することができる。
- ・1回300円で、目的地に近い場所まで行けるが、駅前のロータリーに入ることができず、多少不便なこともあるが、定額制で安い。
- ・運行は、地元のタクシー会社が行っている。
- ・民業を圧迫しているとの意見もあり、東京ハイヤー・タクシー協会は反対している。

→（公共交通課）タクシーの利用に当たり、アプリで予約する利用者が増加していると伺っているが、利用している年齢層など運行事業者から見た現状はどうか。

- ・（運行事業者）アプリを利用した予約は、若い方が多い。各タクシー車両にはGPSがついており、利用者がスマートフォンで予約すると、位置情報から、どこに向かうのかがカーナビに表示され、一番近いタクシーの運転手は道に迷うことなく向かうことができる。また、利用者もタイムリーに車両の位置を知ることができ、到着時刻を予測することで、乗車直前まで外で待つ必要がない。その利便性から、利用する方も増加している。システムを導入し2年弱だが、利用者が当初の倍以上に増加しており、この先も増加することが推定される。
- ・地域のグループでオレンジカフェという集まりがあるが、そのオレンジカフェに来るための公共交通手段がほとんどないことが問題だ。現状は、歩いて集まることができる人だけが参加している。歩いて会場に行くことができない方のため、タクシーやバスに乗り、安全に会場まで行き、帰ることのできる仕組みが欲しいという要望がある。その手段として、相乗りタクシーなどは移動手段の一つだと感じた。このような要望に対応できると、高齢者の外出する機会が増え、良いと考えている。
- ・現在、コミュニティタクシーが走っていないエリアの方のニーズも聞き、コミュニティバス・コミュニティタクシー以外の新しい交通を検討していきたい。

3 令和3年度コミュニティバス・コミュニティタクシー乗車実績状況

(資料2-①) (資料2-②)

○公共交通課から資料に基づき説明

(質疑なし)

4 令和3年度ぶるべー号利用者アンケート集計結果について

(資料3)

○公共交通課から資料に基づき説明

◆ 意見等

- ・「ぶるべー号を利用する主な目的は」の質問に対する回答が選択肢の中から複数選べなくなっているが、買い物と通院の両方を利用される方もいると考えられるため、質問を工夫した方が良い。

5 バスとタクシーのひろば in 小平2022について

○公共交通課から説明

◆ 質疑なし

6 コロナ禍における利用促進活動等について

○公共交通課から説明

◆ 質疑等

- ・にじバス・ぶるべー号通信等で、移動に困っている人がどのような交通手段を必要としているかを前面に出してはと思う。
- ・コロナ禍で外出の機会が減っている。コミュニティタクシーは、安全な交通手段だと考えている。以前は自転車に乗れていたが、高齢化で自転車に乗ることができなくなった方に、コミュニティタクシーを周知しているが、知らない人が多い。そのような方と一緒にコミュニティタクシーに乗って利便性をアピールするなど、丁寧な利用促進活動が必要であると感じる。また、地域の活動に行きたいが、行けない人への交通手段を地域で考えていく必要があると考えている。
- ・コミュニティバス・コミュニティタクシーのPRとして、運転免許証を返納された方をターゲットに絞ったPRをすべきだと考える。
- ・敬老の会などで、公共交通の説明を公共交通課にさせていただくことは可能か。
→ (公共交通課) 可能である。是非行かせていただきたい。

7 その他

○公共交通課から説明

- ・市制施行60周年を記念してぶるべー号をデザインしたチョコQを作製し、一日乗車券や回数乗車券とセットで販売する予定。
- ・市主催のイベントでは、単品での販売も予定している。
- ・納品、販売開始時期は、8月以降を予定している。

◆ 意見等

- ・ぶるべー号のデザインは2種類あるが、どちらのデザインか。
→（公共交通課）大沼ルートでデザインで作製している。
- ・現在、小川駅西口の再開発が行われており、ロータリーができる予定だが、コミュニティタクシーの停留所はできるのか。
→（公共交通課）駅前広場内に設置予定である。
- ・今後、小川駅西口の駅前広場にタクシーは乗り入れるのか。
→（公共交通課）タクシープールの整備や大型バスの乗り入れも可能な導線を考えている。
- ・小平団地は、南東部地域だが、コミュニティタクシー鈴木町ルートからは外れている。しかし、公共交通についての住民の声は根強いものがある。市役所に行く場合、バスや電車を乗り継ぐルートはあるが、分かりづらい。また、自転車か徒歩かタクシーで行く人が多いが、高齢者は市役所に行くたびにタクシーを利用することはできない。市全体の公共交通政策を検討する中で、このような声を大いに取り入れてもらいたい。
- ・小平団地から市役所までは、本数は少ないが、西武バスの滝山営業所行きがあるという話を聞いたことがある。
- ・コミュニティタクシーの運行ルートから外れた地域の方々が会議に参加しなくなってきた。会議に来ていない方の声を反映していかなければならない。

《今後の予定》

- ・今後は、どのようにしたら運行ルートから外れている地域の方の声を取り入れることができるのかについて協議する。
- ・次回の開催は、7月頃を予定している。